

クルティザンヌの全盛期（1830～）に流行したファッション ロマン主義から生まれたロマンティックスタイル

パリでは、華奢で、なで肩をしていて、肌は青白く、腰はくびれており、やや病的な印象を与えるような女性が人気

・シルエットはアルファベットのX字型を描き、腰の細さを強調

・釣鐘型（ベル型）のスカート

<クリノリンの誕生>

スカートをふくらませる素材は次第に進化していく。

時代が進むにつれ、スカートは釣鐘型（ベル型）からドーム型になり、その円はますます大きくなっていく。1854年ごろ登場したクリノリンはスカートに張りをもたせる技術として一世を風靡した。



923 WINTERHALTER: *Princesse de Joinville*, 1844
Versailles, Museum. (Museum photo)

・大きく膨らむレグ・オブ・マトン（ジゴ）袖

・ネックラインとショルダーラインがともに下がった大きなデコルテ

・花飾り

<花飾りの流行>

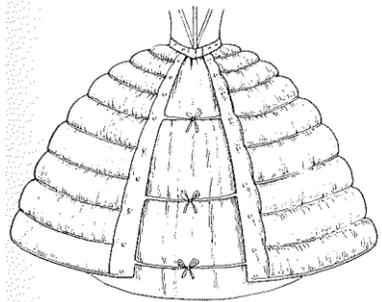
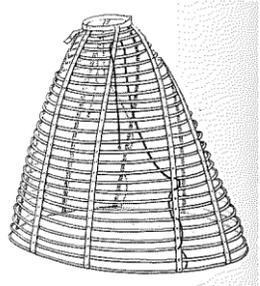
当時は女性の優しい美しさを花で表現する時代。

花飾りは必需品。ドレスの装飾、髪飾り、帽子の装飾など使い方は様々。

ヴィオレッタのモデルとなったマリー・デュプレシは白い椿（カメリア）を身に付けるのを好みました。



女性のファッションはさらに豪華に (1854～) クリノリンスタイル



「ひとりで着られないとはやっかいね」

クリノリンは1854年～67年頃のモード。
1830～40年ごろはスカートをふくらませるためにジュポン（ペティコート）やス・ジュープ（アンダー・スカート）が使用されていましたが、クリノリンはそれに張りをもたせるための繊維素材として登場しました。

クリノリンは次第に金属のタガが用いられるようになります。
フランス・モード産業の近代化の推進者である、イギリスのシャルル・フレデリック・ウォース（1825～95）は、この金属製のクリノリンをいち早く採用し、優雅なドレスを世に送りだしました。



「ウジェニ皇后と女官たち」 初期のウォースの衣装を着ている 1860年 ウィンテルハルター画